

# 令和4年度第1回総合教育会議 議事録

## 1 開催日時

令和4年6月27日（月） 13:15～14:45

## 2 出席者

- (1) 構成員
- |      |       |
|------|-------|
| 市長   | 園田 裕史 |
| 教育長  | 遠藤 雅己 |
| 教育委員 | 佐古 順子 |
| 教育委員 | 中嶋 剛  |
| 教育委員 | 前田 愛  |
| 教育委員 | 船橋 修一 |
| 教育委員 | 朝長 昭光 |
- (2) 説明者
- |        |       |
|--------|-------|
| 教育政策監  | 西村 一孔 |
| 教育次長   | 川下 隆治 |
| 教育総務課長 | 児玉 英輝 |
| 学校教育課長 | 堺 邦寿  |
- (3) 事務局
- |        |        |
|--------|--------|
| 企画政策部長 | 渡邊 真一郎 |
| 企画政策課長 | 石山 光昭  |

## 3 協議

- (1) 大村市立中学校における運動部活動の現状と課題
- (2) 九州市長会を終えて～市長からの報告

## 4 その他

## 5 閉会

### [資料]

- (1) 大村市立中学校における運動部活動の現状と課題
- (2) 飯塚市の未来を担い、世界へはばたく「本物志向・未来志向」の教育  
(提供：飯塚市教育委員会)

## 企画政策部長 渡邊 真一郎

定刻となりましたので、ただ今から令和4年度第1回総合教育会議を開催いたします。本日、司会を務めます大村市企画政策部の渡邊でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは会議に入ります前に、お手元の資料のご確認をお願いいたします。配布しております資料は、会次第、資料1「大村市立中学校における運動部活動の現状と課題」、資料2「飯塚市の未来を担い、世界へはばたく（本物志向・未来志向）の教育」、以上の2点でございます。資料の不足等ございませんか。それでは早速、会次第に沿って進めてまいります。開会に当たりまして、大村市長、園田裕史がご挨拶を申し上げます。

## 大村市長 園田 裕史

皆さんこんにちは。本日は第1回令和4年度総合教育会議を開催しましたところ、大変お忙しい中このようにたくさんお集りいただきまして、誠にありがとうございます。また今日は午前中に市議会の全員協議会が開催されましたが、その後のお忙しいところに市議会議員の皆様にも傍聴席にお越しいただきまして本当にありがとうございます。

年度が変わり4月以降から6月までの状況がありますので少しお時間をいただきましていろいろと報告させていただきたいと思います。年度当初に施政方針の中でも説明をさせていただきまして、この総合教育会議、またこの後の教育委員会できいろいろと政策をもんでいただいて、4年度から実施をしていることのひとつが、給付型奨学金制度ですが、これは学業のみならずスポーツ・文化にも広げるといことで、広報紙等を通じて市民の皆さんにもお知らせをしています。特に高校生の親御さんからの関心が高く、いろいろなところからこの内容に関してお問い合わせをいただいております。拡充したことは非常に喜ばれているのですが、一方で経済的な世帯年収の対象については、まだ様々なご意見があつているところです。ただ

始まったばかりなので、今後は申請状況をみて中身を協議しながら、また随時委員の皆様からもご意見をいただけたら嬉しいなと思っています。中でも象徴的だったのが、10代の男の子からA4に3枚ぐらいのお手紙が来て、教育長とも共有していますが、非常に学業成績が優秀な子で高校を一旦休学して、海外へ出て行きたいと。その子が新たなチャレンジをするという時に、この制度を活用したいが世帯年収が高いご家庭なので制度を利用するのは無理だと、ただ市長考えてくださいと、これは子どもの頑張りを支援する給付型ですよ、親の年収は関係ないではないかと、自分が頑張つて大村市に恩返ししたいために海外に行ったり、また起業したりということを考えていると。ものすごく優秀な子なのですが、自分対象にならないということを経験したことで、本当に論理的で中身のこもった提言でした。まだ始まったばかりですし、そういったこともご意見をもみながら進めていけたらいいなと思っています。そういった中、一方では、スポーツや文化にも対象を広げたといことで、3年ぶりに中総体や高総体が観客を入れて開催されるという中で、子どもたちが本当に生き生きと自らの力以上に発揮している姿を私も見ましたし、教育長は高総体の開会式まで行かれて、観客席もグラウンドも皆マスクを外しましょうといことで、屋外でルールを守つて、距離が保たれているからといことで、本当にのびのびと競技をされていました。中でも大村工業高校バレーボール部は、1セットも相手に取られずの完全優勝で、九州大会は負けてしまいましたが、春高に向けて非常に期待が持てると思っています。もうひとつは女子のバレーボール部の決勝は聖和と九文だったのですが、実は聖和のキャプテンは大村の鈴田で全国大会に行った前田さんとい子で、九文のエースも田中さんとい大村の子です。本当に全国レベルの九文、聖和のトップチームの中で活躍をしているのが大村の子とい

ことで本当に喜ばしいことですし、文化においても昨日教育委員会が主導して進めている「音楽があふれるまちづくり」という事業の中でも、今の中学生・高校生のプラスバンドの活躍を見て、「私も早くから、自分の子どもにも早くから」という子どもさんや親御さんが40組ぐらい市内外からこちらに集まって、音楽専門官の藤重先生の指導のもと、小学校から楽器に触れるという指導が始まっておりま。いろいろな形の中で、教育委員の皆様のお陰で事業や政策がより練られているいろいろな事が進んできていますので、今日も忌憚のないご意見をいただいて、大村市の教育を前に進めていけたらと思いますのでよろしくお願いいたします。

最後に、もう一点ご報告ですが、遠藤教育長を先頭に今、学力向上に対する取組み、校区変更に対する取組、制服統一化に対する取組、この三つを柱にした大きなプロジェクトが進んでいます。改めてですが、これだけ大きなお題目三つまとめて関連性を持たせて、しかも着実にスケジュールを立てて目標に向かって教育委員会、学校教育課が中心になって進めています。本当にすごいことで、なかなかこれだけのことが一度に進んでいくとは思えないくらいすごいことです。保護者の方々からも関心が非常に高く、子供会や町内会の集まりに行った時に保護者の方から制服が変わるのですかと、制服はこれこれこうで格差があって一万円ぐらい差があるからそれを変えていこうと、またジェンダーの問題もあります、校区の問題もあります、という説明をしていたら、何か説得されそうで嫌ね、と言われたのですが、ただアンケートには好きに書いてくださいと言いました。笑いながら言っていましたが、それほど関心が高いです。思った以上にお母さん達も学校のアイデンティティみたいなものがあって、どうして制服が変わるのが嫌なんですかと聞いたら、大中は青かなと思っていたとか、そんな声をいただいています。今後、アンケートが集まっていると多

様な意見が聞けて、良い形に進んでいくのではないかなと思っています。保護者の方々は決してネガティブではありませんし、前向きな中に教育委員会の三つのプロジェクトの取組みをしっかりと理解して捉えられているということ、現場で保護者の声を聞くことができているので、ぜひ教育長を先頭にいろいろと進めていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

長くなりましたが冒頭のご挨拶とさせていただきます。本日もよろしくお願いいたします。

#### **企画政策部長 渡邊 真一郎**

ありがとうございます。それでは、次第「3協議」に移ります。ここからの進行は、大村市総合教育会議運営要領第3条の規定により市長が行います。園田市長、よろしくお願いいたします。

#### **大村市長 園田 裕史**

それでは協議に入ります。まず、協議事項(1)「中学校部活動のあり方について」でございます。新聞報道等でも出ておりますし、議会でも話題になっておりますし、なかなか簡単にはいかないということで聞いておりますが、まずは国からの通知であったり、県の考え方であったりというところを事務局からお願いいたします。

#### **学校教育課長 堺 邦寿**

それでは中学校部活動のあり方について学校教育課から説明いたします。お配りしております資料の2ページ目をお開きください。運動部活動改革のこれまでの経緯・取組についてという資料でございます。これは文部科学省の資料でございますが、それに基づいて説明いたします。平成30年3月に「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が示され、このガイドライン及び県のガイドラインに基づき、本市においても「大村市立中学校運動部活動方針」を定め、具体的には練習時間や休養日の設定がなされています。そして、平成31年1月の中教審答申及びその下の令和元年の給特法の国会審議において部活動を学校単位から地域単位の取組として、学校以外の主

体が担うことについての検討、早期実現についての指摘がなされています。令和2年9月の通知「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」より令和5年以降、休日の部活動の段階的な地域移行等について示されています。

それでは資料3ページをご覧ください。学校の働き方改革を踏まえた部活動改革の概要につきましては、この資料のとおりです。部活動は、教科学習とは異なる集団での活動を通じた人間形成の機会や、多様な生徒が活躍できる場であるなどの部活動の意義を大切にしながら、部活動が教師の長時間勤務の要因であったり、指導経験のない教師にとって多大な負担となっていること、また生徒が専門的な知識や技能がある指導者からの望ましい指導が受けられないなどの課題を受け、持続可能な部活動と教師の負担軽減の両方を実現できる改革が求められました。その具体的な方策として、一つ目「休日の部活動の段階的な地域移行」二つ目「合理的で効率的な部活動の推進」がなされることになっています。

続きまして、資料の4ページ目をご覧ください。これは令和4年度「運動部活動の地域移行」に係る県の準備取組についての資料でございます。県においてはこの準備取組が現在、進められているところです。先日ありました国の運動部活動の地域移行に関する検討会議での提言を受けまして、今後県においても長崎県部活動の在り方に関する検討委員会が開催され、その後一定の方向性が示されるということになっています。この資料の後段に市や町の取組例が書かれておりますが、これは考えられる取組の例として示されているものです。続けて次のページの資料をご覧ください。A4横置きの文科省の資料ですが、これは学校の働き方改革を踏まえた部活動改革のスケジュールです。2023年、令和5年度から部活動改革の全国展開が示されています。次のページをご覧ください。これは長崎県におけるスケジュールでございます。ただこれは5月の下旬に示された予定で

ありますので、今後変更があると聞いております。

最後に大村市の現状についてご説明いたします。資料の1ページに戻っていただいても宜しいでしょうか。この内容につきましては、案でございますので今後、変更等があることもございますのでご了承いただければと思います。大村市立中学校におきましては、学習指導要領の内容を受け、先ほど申しました「大村市立中学校運動部活動方針」のもと実施しているところです。大村市立中学校の部活動につきましては、学校教育としての部活動と、社会体育としての部活動として実施をしているところです。各学校におきましては、部活動育成会、または部活動振興会を組織し、それぞれの部の代表者が役員となって運営をしております。その社会体育については学校長等の管理職が本組織の顧問として入り、外部指導者を含む指導者は会長が任命することになっています。ここに下線を引いています顧問と申しますのは、各部の教職員の担当のことになります。この顧問が指導する場合も指導者登録をすることとしております。

その下の地域移行の効果と課題のところですが、地域移行に関するメリットとデメリットになります。メリットについては教師の負担が大幅に減少する。専門性がある指導者から指導いただける。地域が活性化する可能性がある。複数校から集まりチーム編成ができる等があげられます。デメリットといたしましては、指導者の確保が困難であること。平日と土日で違うチームに所属することになる。保護者の負担が増えることが予想される。大会への参加が制限されることが想定される。また、ガイドラインの徹底について等が考えられるところです。今後の大村市立中学校の部活動の地域移行の方向性等につきましては、本市の中学校部活動の状況を十分に踏まえまして、今後、県から示される推進計画を受け、どのように進めていくことが本市の子どもたちのためになるのかということを中心に検討いたしまして、方針等を考えて参りたいと思っております。説明は以上でござ

います。

## 大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。テレビや新聞等で報道されている内容で、委員の皆さんも非常に関心が高いことだと思います。もちろん今から進んでいくことであると思いますが、まず総合教育会議なので市長がどのように考えているのかということをお話させていただいて、委員の皆さんからご意見をいただいて、私としての考えも整理していきたいと思いますが、教育委員会の中でもお話をいただければと思います。私自身は、これまで遠藤教育長にリーダーシップを取っていただいて、令和4年度からの取り組みも、実は令和3年度から先取りで取り組んできたことがあるのではないかなと率直に思っているのですが、ひとつは昨年度から藤重先生が音楽指導官ということで入ってこられて、これもひとつの地域移行で学校現場ではなくて、いろいろな形の中で藤重先生を活用して中学校の部活動の指導に入っていただくということも先取りだったのではないかなと思っています。今年度は卓球で2名の先生を配置して各学校で指導をしてもらって、大学生や指導者の方が指導に入らせていただいているので、いわゆる外部指導者ということで、これだけの人数で展開しているということは県の中でも先進的に取り組んでいるのではないかなと私としては思っています。それはそれとして、今の学校の部活動が主にある中で、そういったものを活用というか、そういう課題という形なので理解は出来ますし、学校の先生の負担軽減に繋がっているのではないかなと思っています。この国から示されている地域移行というのは、根本的、抜本的に地域移行に変えていくということなので、私としては部活動という教育の部分が薄くなってしまわないかということが心配だなということがひとつ、それと当然クラブチームになれば保護者の皆さんの経済的な負担が発生するのではないかなと、それと先ほど中総体の話をしましたが、学校の代表が頑張っ

ている姿を皆で応援しているということが部活動のひとつの醍醐味で、自分の学校の代表なんだという愛校心ということに繋がれば、部活動を通して部活動をやっていない子にも伝わるといって、とても素敵な取り組みが出来るのも中総体があるからだと思っているので、それが全てクラブチームに移行となってしまうと他校の生徒たちと交わって幅広い人間関係が出来ることは良いことかも知れないけれども、一方で教育的な部分が損なわれるのではないかなと思ったりしています。その様なことを含めて皆さんからぜひ自由活発にご意見をいただければと思いますがいかがでしょうか。

## 教育委員 中嶋 剛

私も教育現場に38年間おりました。そのうちの大半が中学校でした。新年度の異動の時期に、新年度が始まる前に転入をされる方が必ず挨拶に来られるのですが、その時に、あなたは部活動で何か指導が出来ますかというのが第一声でありました。これは非常に大事な問題です。転出をされた先生の穴を埋めなければならないから、そうした場合に新たに来られた先生に何が出来るかを確認します。そうすると、私は運動音痴で運動が全く出来ませんという先生もいらっしゃるし、私はバスケットをやっていたと、パッと先生もいます。私は教育委員会にいた関係で、県にも何回も申し上げたのですが、教員採用にあたって何らかの部活動の指導が出来るという条件を付けたらどうかということは何回も言ったことがあります。このように部活動の取扱いの中で、学校教育の一環として教育課程との関連が図られるように留意すると、きちんと明記されています。これは基本的には、私はその学校の先生がやはり指導者になってやっていくのが良くないかなと思います。もちろん先ほど話をしましたように全くやったことがない先生もいると言いましたが、例えばひとつの例ですが、私の娘婿が中学校の数学の教師で教育委員会でお世話になっているのですが、彼が桜が原中に行った時に、あなたは野球を持ち

なさいと、全く野球を持ったことがなくてラグビー専門だったけれども、全く指導の仕方も知らない野球を持たされました。ところが数年した時に野球部を全国大会まで連れて行ったんです。あの瀬良選手がいたんですね。瀬良と行きましたということで言っていました。全く指導を知らない先生でもやる気があれば出来ると、こういうことですね。また私の例を言えば、私の孫が、今、臨時採用で桜が原中にお世話になっております。彼は小学校から大学までバスケの専門でした。てっきりバスケを持たされると思ったところ挨拶に行った途端に、あなたはテニスをしてくださいと言われ、結局テニスを持たされて、今は一生懸命子どもたちとやっています。こういうことで何らかの形で子どもたちに関わっていくということが、生徒指導上も良いと思いますし、学校の方針というものも伝わっていくと思います。私もバレーボールを30数年間指導してきました。土日は全くありませんでした。私の子どもたち二人は母親が全てみてくれていた、そういう時代でした。だからこの働き方改革から言えば、私は本当に駄目なんだなと思います。あの学校に勝ちたい、あの指導者に勝ちたい、そういう気持ちで寝ても覚めてもバレーボール一色で、こういう時代でした。だからこういうことでみると結局はどういう風にしたら良いのか、令和5年度までに地域に移行する、土日を外部指導者に移行するという事になれば、平日は先生方が指導しますけれども、あとの土日は引率をしないで、他の外部の指導者がやるのか、これもどうかと私はおかしいなと思っています。非常にこの問題は難しいなと思っています。ただひとつ最後に言えることは、大村市の中学校の部活動をどうするかということについて、やはりプロジェクトチームを立ち上げた方が良いと思います。教育委員会とスポーツ振興課、この二つが柱になって、大村市のスポーツ協会は33団体ありますから、それと中体連などをいれると37団体になります。

スポーツ協会、教育委員会、それとスポーツ推進委員という方が地区におられます、各8地区に2～3名おられますので、そういう方々をプロジェクトの中に入れて、在り方というものをもんでいった方がより良いのではないかなと思っています。

#### 大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。現場を通してからのご意見が沢山あると思います。他に皆さんから自由に何かございませんでしょうか。前田委員は去年まで娘さんが中学校にいらっしやいましたし、率直に思うようなことはありませんか。

#### 教育委員 前田 愛

確かに先生方の負担はとて大きいなと、私の娘は吹奏楽部でしたがそう思います。これは先生方の希望制ということは駄目なんでしょうか。希望した先生が部活を持つということは出来ないのでしょうか。

#### 大村市長 園田 裕史

そこら辺はまだ今からですよ。私もそれをよく思っていて、先ほどの中嶋委員からの話でもあったように、したいという先生もいれば負担だという先生もいるし、どこかで線を引くということではないし、多分今からではないのかなと思います。事務局から何かありますか。

#### 教育政策監 西村 一孔

配布している資料の中に、働き方改革を踏まえた部活動改革の概要の改革の方向性の二つ目のところに、「部活動の指導を希望する教師は、引続き休日に指導を行うことができる仕組みを構築」となっていますので、前田委員がおっしゃったことは出来るのではないかなと思います。

#### 大村市長 園田 裕史

ただ、ここはまず前提として部活動が学校に残ればという話ですよ。だから地域スポーツクラブとなった時には、また違って来る感じかなと、競技によっても変わってくるのかなと、非常にそんなことを含めて複雑だなと、まだ始まり、取りかかりの段階なので、だからこそ自由に皆さんの

幅広いご意見を聞きたいなと思います。船橋委員どうぞ。

#### 教育委員 船橋 修一

なかなかこれは一律にはいかないと思いますね。仕事上、県下の小中学校と関わっていますが、長崎市内であれば統廃合が進んでいて、ほとんどの町の小中学校の生徒が激減していて、私がいた中学校も7クラスあったのに、もう2クラスしかないということで、実際に現場の先生からは部活動どころではないという話を聞きます。比較的大村市は人口も増えていて、そこまで長崎市のように極端な例はないと思うのですが、ただこの政策は全国で進んでいるんですね。なかなか一律にはいかないと思うし、部活の強豪校というのは存在する訳ですし、その意見を無視してやめるというのは出来ないと思います。学校の校区、または行政エリアごとに係わってくるだろうと思いますね。実際に小中学校の先生に聞くと、部活動が命という方もいらっしゃいますよね。そのような方もいらっしゃれば本当に負担でという方もいらっしゃるの、やはり民主的にそれぞれを合わせないと玉虫色にはならないと思いますけれども、そうせざるを得ない気がします。また、子どもたちの校区は決まっていますので、もしそれでどこかの学校では部活動を存続させるとか、どこかの学校では部活はやめるとかになると、ある意味高校教育、校区をある程度自由にさせないと子どもたちにも弊害が起きるのかなと思っています。

#### 大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。朝長先生は部活動の指導の先生方と仲良くされていると思いますが、何か期待されることはありますか。

#### 教育委員 朝長 昭光

昔の話なのですが、私の時代は、部活動はほとんどなくて、小学校はなくて中学校でちょっと参加するかどうか、高校は全くしなくてクラブ活動をするなど先生から言われて、帰ってからは勉強、受験という時代でした。今、これで一番大きな問

題になっているのは、実は働き方改革で学校の先生方の問題ですよ。この改革というのは、非常に言葉は良いのですが、医療分野でも働き方改革と言って勤務時間を減らされて大ごとなんですね。時間外に患者さんがいるので診なくてはならない時が発生するし、施設であれば当直もいるし、誰でもいいと研修医の先生が昔は当直に行っていたんですね。お金稼ぎもあったのですが、それも駄目ということになったら、70、80代の先生方が1か月に20日ぐらい交代で当直したりして大変な時代になっています。現場ではそういうことが起こっているのに、表向きの働き方改革をして、それが良いんだと国は満足しています。大学の教授たちの話では真っ先に帰るのは研修医で帰ったら何をするかといったら子どものお風呂を入れたりして、教授や助教授たちが最後に帰っているという現状です。改革はされたかもしれないけれども、私たちはアルバイトに行ったり、夜間にいろいろとすることで勉強して、医者としての知識をたくさん蓄えてきたんですね。だから働き方改革をどのように改革すべきかどうか、単に減らすということではなくて、前田委員が言われたように働く熱意がある方は、中嶋委員もおっしゃっていたように、振り返って良かったという、悔いを残されていないという場合もありますね。後はどこを補充してどこを応援することで上手く回していくかということ、したくない人が無理していたからそういう問題が起こったと思うので。問題点の改善策を息子に聞いたら、やはり指導者を探すのが大変だということが出てくるだろうと。サッカーは人気があるのでクラブに入ってしまう。皆がクラブに入ると部活動が成り立たなくなるし、金額的にもクラブ活動であれば月謝が7,000円、遠征費で2,000円から3,000円ぐらい月にかかるということでした。私の医院の理学療法士の子どもさんが部活動に入っているということで聞いたら月謝が1,700円で遠征費が月に400円で、お金もかなり違っています。大き



な差があるけれども、その金額は親御さんが満足していればどうにか出してくれるでしょうし、問題が起こるのは、子どもたちは行きたいけれども親がそこまで出し切れないという家庭で問題になってきますね。いろいろと言えればメリットもあればデメリットもあるので、デメリットばかり考えたら何でも進まなくなってしまうので、出来るだけ進める方向にしてデメリットをいかに減らしていくか。極端に言えばスポーツの指導者がいなくなれば大村市出身のスポーツの先輩たちがたくさんいると思うので、その方たちが今どこで何をしているのかなど、働く場所が大村で、例えば市で雇って夕方になったら仕事を終わって3時ぐらいから学校に行って指導をしたり。大村市出身の指導者を大村市で迎えてあげることも何かプラスになると思いますし、いろいろなことを応援してあげながらやっていけばどうか。全てが上手くいくことは非常に難しいと思いますけれども、ある程度のことはやって、あと出てきたデメリットのところは他のところで解消していかないと前に進んでいかないとと思うので、私は非常に良いことだと思っています。ぜひ頑張ってくださいと思います。

#### **大村市長 園田 裕史**

ありがとうございます。朝長先生がおっしゃったように良いとこ取りで一番大村が良い形を取れるように構築していければと思いますし、県や国には自治体の実情にあったある程度の裁量を与えていただけるような形で議論が進んでいけば思ったりしています。私の近所を含めてそうですけれども、先ほども朝長委員からもあったように、実はクラブチームに行っている子たちが多いために、その学校の野球部とかサッカー部とか人数がものすごく少なくなっていて、中学校の部活動は少ないのに実はその学校から別のクラブチームにたくさんいっていると。強い弱い、勝った負けたではないですが、その子たちがクラブチームに行っていなかったらものすごく強いとかもあ

ったりして、残念だなということもあるようです。船橋委員どうぞ。

#### **教育委員 船橋 修一**

先ほどの補足ですが、これは働き方改革の一環でということ冠がついていますけれども、働き方改革の一環で言うと、部活動の削減の前に、我々民間企業からみると、とにかく学校の教務というのが信じがたいくらい非生産的なものがあるんですね。例えば全ての試験の点数の計算を手でやっていたり、一部進んだ先生はいろいろと取り組まれているけれども、それが全体にはなっていないということで、もし働き方改革でやるのであれば部活動の削減の前に、学校教務の部分を民間で普通にやっているレベルにすると劇的に減るのは間違いないと思います。その残務整理がですね。優先順位をつけるべきなのかなと思います。でもクラブ活動というのは、対人間ですから人間にしか出来ません。教務の合理化というのは、ある程度DXでかなりの部分が出来ると思います。これはやはり優先順位をつけていかないと、全てを同列に現状を維持したままであると全てに不整合が起きるのではないかという気がします。

#### **大村市長 園田 裕史**

ありがとうございます。非常に重要なことだと思います。中嶋委員どうぞ。

#### **教育委員 中嶋 剛**

現状は結局、勤務時間内は小中学校の教師としての立場、勤務時間を過ぎると社会体育の中の指導者という形できている訳ですね。ここには今後の方針という事で市がまとめていますが、まさにここだと思います。今後の方針として「社会体育としての活動を継続し、教職員の兼業兼務の承認や、県や中体連と連携して、現状を分析し、段階的に地域移行を導入していく」と、良くまとめていると私は思います。この方向でしか今のところ考えられないということですよ。中体連も現在どのような形でやっているかということ、やはりまだ学校単位ですね。今、日本の全国中学校体育連



盟は、今年の3月でしたがクラブチームの参加を認めるといことを出しています。まだ長崎県は出ていません。全国的にはだんだん学校とクラブチームの両方で出来るという形が将来的にはなっていくのかなと、どれを応援して良いのかさっぱり分からなくなってしまうなという思いで考えています。長崎県の中体連がどのような方法で今考えているのか、これはまだ分かりませんよね。

#### 教育政策監 西村 一孔

まだ分かりません。

#### 教育委員 中嶋 剛

まだ分かりませんよね。だから、このまとめている以外は書きようがないんですね。結局、今の先生方が土日に引率をする時、どういう立場で行っているかという、部活動指導手当というものを校長に申請をします。そして、3時間以上指導をしたら手当がもらえるということになっています。微々たるものですが、そういう形でやっています。だからそれが完全にクラブチームに移行した時には、これはクラブの指導者の先生に多額の金を払わなければならない。そうすると保護者の負担が大きく増えてくる。だから国が補助を出している。今、大村市では卓球で2名の方が補助対象としていらっしゃる。卓球で2名、まだまだ部活動はいくつありますか、考えただけで分かりますね。これを本当に令和5年度までに移行出来るのかどうか、私はとても言えないと思います。

#### 大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。佐古委員、何か全体を通してありませんか。

#### 教育委員 佐古 順子

資料をいただきましたが、この働き方改革を踏まえた部活動改革として、まず、改革の方向性ということで一番アンダーラインがかかっているところで「部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務であることを踏まえ、部活動改革の第一歩として、休日に教科指導を行わないことと同様に、休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環

境を構築」と書いてあります。先ほどの話にありましたように、土日は教師がしないという環境を作った場合にひとつ考えられることは、引き続きまた自分がやりますという先生がいらっしゃるということで有難いということですよ。土日をしないで良いとなった場合に、二つ目の考え方として休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を整備と書いてございます。今、大村市の民間クラブチームにお聞きしたのが、現状としては、新体操クラブが民間クラブチームで活動していると聞いています。九州大会もシーハットで開催されました。長年に渡る指導者の方がいらっしゃる。大村だけではなくて、長与のチームなどいくつかのチームと活動されています。こういうところは出来上がっている、素晴らしい民間のクラブチームだと思っています。あとはスイミングクラブと学校の部活と両立して活動している生徒さんもいらっしゃいます。剣道や柔道などは道場と学校の部活動に入っている生徒さんもいらっしゃるというように聞いています。現在すでに学校と地域とか、社会体育の両方で活動している部活動がどのくらいあるのかというのを調査したり、室内スポーツ競技におきましてはシーハットの体育館がありますので、そちらで練習されている状況や、先ほどもありました室外スポーツ、ラグビーやサッカーなどのチームがどういう練習場所を利用して、どんな社会体育の団体や地域スポーツがあるのかを調べて、また学校も小規模校、大規模校があるので共有できるところと、共有できないクラブがあるのかどうか、また人数によっても小規模校ではサッカーも野球もラグビーもということは出来ないと思うので、そういうものをひとつひとつ洗い出して解決していく方向でしなければならぬのかなと感じました。それと鈴田地区は剣道を地域スポーツでなさっていると聞いておりますので、大村市で出来る現状というものをまずは調査することが必要だと感じました。

#### 大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。確かに佐古委員がおっしゃるように、難しく捉えると大変だなということがありますが、実は今もやれていることがあったりするのかなと思っています。ひとつは先ほどもありましたが、剣道や柔道は並行して今もやれているんじゃないかと思いますが、よく考えると小学校から中学校を通じてやっている地域スポーツというのが、中学校で部活動に所属をしているけれども、そのまま地域クラブにも並行して入っているパターンがあるのかなと確かに思いました。そもそも小学校のクラブチームというのは社会体育そのものなので、小学校は学校の先生が指導していることもあるけれども、社会体育という位置づけでどこかで線を引いてやれている部分もあるのかなと思います。これを中学校的に上手くアレンジしたり出来ないのかなと、そんなところにもヒントがあるんじゃないかなという気がします。いずれにしても今みたいに皆さんからのご意見をたくさんお聞きしたいですし、教育委員会の中でもさらにもんでいただいて、横並びでもなくて、国や県から言われたことでもなくて、大村市の実態に即した一番いい部分を構築できればと思います。見失ってはいけないと思ったのが、船橋委員からありましたように、そもそもお題目というのは先生方の働き方改革ですから、この部活動だけではなくて他の煩雑な業務とか連絡手段とか他の改革をして時間が空いたらどうなんだという部分はきちんと並行してやらないと、部活動の改革のための改革みたいになってしまうので、元々の目的が失われてしまうところもあるので、通常の事務作業、事務処理といったことを含めて総合的に見ていく必要があるかなと感じています。一番はそれと同時に中嶋委員もおっしゃっていましたが、これは教育活動としてどういう位置づけを部活動に考えるのかということで、やはり大村市として柱がないといけないと思いますので、引き続き皆さんとの意見交換を進めていきたいと思います。因みに中嶋委員からもありましたが、私の知る限

りでは、地域の指導者が入ってきっちり対価をもらって成り立つというのが、先ほども教育長からありましたが二人の卓球の指導者の方は、それを主とした業務として生活をされている訳ではないので、それだけでは人件費や報酬というのは大きなものではないです。ただ藤重先生みたいにある一定の専門官という形で、教育委員会で雇用をして、そこに業務を与えて活動をしていただければ良いのですが、それはそれなりの人件費が発生します。恐らく西海市も同じように、大崎高校は野球が強いですが、あの清水監督は西海市の教育委員会で雇用をして、西海の大崎高校に指導に行かれています。まさにこの取り組みの最たるものではないかと思います。しかしそこには相当なコストがかかっていると思いますから、先ほど言われていたように全種目で全学校にとったらとんでもないコストになるという側面もあるのかなと思っています。いずれにしても、まだ取り掛かりの部分で皆さんからまずお話を聞き出すことが出来ました。これは大きな問題ですので、引き続き今日の会議が終わった後でも、ぜひ皆さんの周囲の方々からいろいろなご意見を聞いていただければと思いますのでよろしく願いいたします。

それでは毎度のことで、議論が多岐に渡って時間がオーバーして申し訳ございませんが、協議事項の2に移ります。

先般5月17、18日で3年ぶりでしたが、第130回九州市長会が福岡県飯塚市で開催されました。行政視察の中でICTを活用した本物志向・未来志向の教育現場をめぐる小中一貫コースに参加したのですが、新しく統廃合をして建て替えた小中一貫学校にも視察に行ってきました。その手前で飯塚市教育委員会から説明を受けて面白いなと思ったので、これを大村市教育委員会でこんなことをやりましょうという話ではなくて、ひとつの参考として非常に興味深かったし、面白かったし、教育委員会として今後、視察とか見学に

行かれるようなことがあれば、この飯塚市も面白いのではないかと考えておりましたので、僭越ながら私から研修内容を皆さんに同じようにはいかなないですがお伝えして、皆さんからご意見をいただいて大村市で取り入れられる部分は取り入れていこうというような感じで、そういう時間をこの総合教育会議の中で出来ればと思ってさせていただきたいと思います。

(資料の説明)

福岡県飯塚市の市長は片峯市長さんという方で、実は市長になられる前に、教育長をされていた方です。60歳の定年を迎えずに当時教育長になれと当時の市長から言われて、教育長を勤めあげられた後に、当時の市長から後継者の指名を受けたという感じで市長になられた方です。飯塚市の教育環境は、実は大村市と近いところもあって、福岡市と北九州市の真ん中にあるので、便利が良いんだということです。飯塚といえば、片峯市長の言葉をお借りすると、実は筑豊の炭鉱でちょっとやんちゃでというイメージがどうしてもあるということで、そこから脱却できないと、だったら教育先進の地域だということを打ち出して大村市と同じように若い子供たちが外に出て行かないように、飯塚で教育して飯塚で就職していくようなことになれば良いなということで教育に力を入れていく取組をされています。福岡市にも北九州市にもアクセスが良いし、これは出来るなということで取り組まれています。実は飯塚の中には近畿大学の理工学部や近畿大学九州短期大学、九州工業大学情報工学部の大学が立地していて、12万5千人のエリアの中で大学がこんなにもある、そこを磨こうということで取り組まれています。大村市が10万人弱で小中高の学校があると考えたら、確かに12万人でこれだけの小中高があるというのは、大村市も同じぐらいかなと思うのですが、実はこの中でひとつは福岡県立の中高一貫の付属校があるということ、私立の小中もあるということで、多様な学校があることが飯塚市の特徴だと

思います。また先ほども言いましたが高校も近大付属の高校があったり、非常に恵まれている学校があるなど、ただ逆を言うとこれだけのものがあるのになかなか教育が打ち出されなかったというのは確かに歯がゆい思いをされていたのかなと、だからこそ今いる若い親御さんにそれを伝えるために特に小学校でも教育に特化した取組を強化しているということでした。大村市教育委員会もきっちりこの理念・志向を組み立てられているのですが、この「やさしく」「かしこく」「たくましく」という、このひとつひとつに対して何を取り組んでいこうかという説明がありました。「小中一貫教育地域とともに」ということで、小中一貫ということ、とにかく進められているみたいです。小中一貫は一体型の小中一貫校、併設型、連携型とあるのですが、建物のハードに関わらず、たとえ離れていたとしても無理やりにでも小中一貫教育をやっていくんだということで進められているようです。そこについては大村市も同じように小中一貫教育で中学校区の小学校と連携していることは今もやれていると思います。そこを非常に学校の統廃合のタイミングで一体型の小中一貫校の校舎を建て替えたりしています。平成25年、29年、30年と全部建て替えられたものです。とにかく9年間やっていくんだということで取組を進められています。私が視察したのは鎮西校というところで、建物は新しく建て替えているので非常に機能的で率直に良いなと感じました。まず「かしこく」という部分の学力向上の取り組みということで、「多層指導モデルMIM」というものに取り組まれているのですが、先生たちの方が詳しいと思うのですが、小学校1年生の時にとにかく読めるということを学習しています。子どもたちが学習に集中できるように最初につかむということで、明治学院大学の教授が開発したプログラムを低学年のうちから徹底して反復させてやっていると説明がありました。これは動画があるので見ていただければと思います。

(動画視聴)

こういう感じで音を捉えるという手法があると、教育委員会の先生方は昔からある教育だと思われると思いますが、この時についていけなさそうな子どもたちをキャッチすることが出来てその後にフォローに入れるというところで、遊び感覚で取組を進めていくことを学校全体としてやっていました。次も「徹底反復学習」ということで、朝の時間の時に百ます計算をやりますよということで、皆さんもご存じのとおり陰山先生が提唱している百ます計算の取組みを全体でやっていきますということなのですが、このアドバイザーを取組の中で飯塚市の中に入れ込んで徹底してそれをやるということで個別の学力向上に取り組んでいます。これも動画がありますのでご覧ください。

(動画視聴)

これも反復して取り組んでいるのですが、この取組みの中で学力向上をしていくために、とにかく反復をしていくケースと、多様性のある人間力を向上させるという部分をケースごとに種類を分けて取り組んでいますということでした。

また次が、飯塚市が実際にフィリピンの学校とオンラインで繋いで英会話の授業を小学校5、6年生の授業の中に取り組んでいるということでした。実際、これだけの取組をすると、大村と比べて学校数が20校ぐらい小学校があつて多いので、その取組みを年間の頻度でやっていく形をとると費用が3千万ぐらい年間にかかるという話を聞きました。それをさらに増やしていくことになる、5千万、6千万とかかるということでした。

(動画視聴)

実際にマンツーマンでやり取りをしているのですが、パソコンの機器類を揃えるにもお金がかかるし、確かにここでやり取りをしているから5、6年生ですごくやり取りができています。ところが、中学校になったら課題として基礎の英語から学ぶので、この5、6年生の取組みを中学校で活かしているかと言うとそうではないみたいです。

大事なのは5、6年生がここまでやるのだから中学校にもその部分を導入していかないと、これはこれで面白かったねという体験だけで終わってしまう。だからそれを中学校にどう引き継いで英語教育を特色のあるものにしていくかというのが非常に課題です。そうやってなかなか成果が上がっていない中で多額の税金を毎年英語教育に投入していることが、今後問われてくるのではないかとされていました。良いところばかりでは決していなくても、実際にこうやってやり取りが出来ていることは非常に大きいというような取組みでした。

次は実際にICTを活用した取組みですが、これは大村市の方が飯塚市より率先してやっていることで、電子黒板であったり、いろいろなやり取りのことは飯塚市よりやっていることだと思のですが、プログラミング教育ということで、ソフトバンクのペッパーを全学校に導入をして、その中でペッパーを動かすということを実際に行っているということです。それだけコストもかかるし、プログラミングの講師も雇って、そこにお金を投じてやっているということです。

(動画視聴)

実際にこのペッパーの中にプログラムを入れ込んでエンターを押したら要求通りペッパーが動くということで、そんなに難しいことではないのですが、ものがあるから非常に子どもたちは取組として関心が高くなっていると思いますし、私が視察した小中一貫校の実際の現場でもこの授業があつていました。非常に楽しそうに系列を作っていて支持を出してロボットを動かす、ここに講師で来ている方々も飯塚市の学校と連携を取っている、市の中で小中学校の教育に飯塚市に所在する大学との連携が図られているような取組が出来ているのかなと思います。そんなこんなで色々やっていったら、学力テストが上がりました、という数字の結果が出てきましたというような説明でした。ただ一生懸命頑張つて数字が上がったの

ですが、実際に最初の目的としていた飯塚市内から福岡や北九州の高校に進学で出て行ってないかという、出て行っているらしいんですね。なかなか簡単にはいかないと言ったところです。私が飯塚市でこの話を聞いた時に、なるほど、飯塚市に対してのイメージがこの短い中で説明を聞いて、色々と教育について力を入れて取り組まれていて、しかも上手にそれがメディアに乗って外に発信をされて、結果的に数字が変わってきているということはひとつ大きな参考になるのかなというようなところです。あとは実際に、小中一貫プログラムは大村市でも取り組んでいるところで、小中が連携をして色々な情報のやり取りを出来ていますけれども、今後大村市も建て替えであったり、長寿命化であったり、お陰様で人口が増え続けているので、小中一貫が一体なのか併設なのか、連携なのか、今後も小中一貫の義務教育の在り方というものが非常に参考になるなというところを感じたところです。

最後に、これは大村市の方がたくさんやっているとありますが、オリンピック、パラリンピックとの出会いです。アスリートと交流をしましょうということですが。

最後に「小中一貫教育全国サミット in 飯塚」の案内ですが、11月に予定をされているようです。私の拙い説明ではなかなか伝わらない部分もサミットに行けばわかると思うので、機会があればぜひ教育委員会でもチェックしていただければと思います。今回この説明と内容を総合教育会議の中でぜひ大村市の教育委員の皆さんに説明をさせていただきたいんですと話したら、資料を全部送ってくださって、どうぞ使ってくださいと、もし良かったら飯塚市にも遊びに来てくださいとお声をいただきましたので、ぜひ今後の大村市の教育の取組の参考になればなと思っています。皆さんから何かご質問があれば、私が聞いてきたことはお伝え出来ると思いますが、何かございますでしょうか。

## 教育委員 朝長 昭光

英会話のオンラインは、孫たちがやっているのですが、アメリカに娘の旦那が留学している時に、行く前と帰ってきてからもやっていて、簡単に出来るんですね。しかも自分の好きな時間帯にポッと出すとその時間帯に都合のいい人が出てくるように簡単に出来ていて、教室でやるとたくさんでやらなければならないと思うのですが、個人でする場合は簡単にできるみたいです。それは非常に良い内容なので、私は学校でやっていることを知ってびっくりしたのですが、ぜひ大村でも良かったらされたら良いと思います。

## 大村市長 園田 裕史

私もこの説明があつて、小中一貫校飯塚鎮西校に行った時に、ちょうどその時間帯に5年生か6年生かが同じようにパソコンの前に座ってイヤホンをつけてやり取りをしていました。隣でだまって見ていたら確かに英語でやり取りをしているんですよ。すごいなと思って。学校の先生にこの子供たちは、例えばこのような取組をしているから英検の4級を取ろうねとか、そんなふうになっていないんですかと聞いたら、それはやっていないと、それをやる計画はないんですかと聞いたら、それはないけれども受けたいという子には受けさせているということで、課題は何ですかと聞いたら、やはりこの教育が小学校5、6年生で終わって、せっかくネイティブとやり取りをしていて感覚で会話が出来ているのに、中学校に行ったら文法英語から始まると。これが英語いやだ、難しく感じることになっていると、だからそこをせっかく小中一貫で連携させるから、そこを解消したいと。解消するために英語は私が言うのもなんなんですが、最初の中学校1年生の時に英語嫌だとなるから、ならないようにこの取組を5、6年生で徹底してやっているということです。せっかくなので、これが中学校まで続けられたら良いということがありました。大村市も松原小学校で特別転入学制度を用いて特色ある学校という中で、そのひとつ

が英語というメニューがあるので、松原小学校みたいなどころからそんな取り組みが出来ていくと横に広がってくるのかなと思いました。あの取組は非常に良いですし、フィリピンのセブ島で相手にそれだけの受皿があってというところで成り立っているのかなと。フィリピンは姉妹都市でご縁があるようで、そういうところでないところだと、相当コストもかかるだろうし、コストも毎年数千万という話で、しかも補助はなく全部市の一般財源ということで非常に大きいかと思います。

#### **教育委員 船橋 修一**

今の飯塚市さんのやり方であればコストはかかると思います。隣の川棚町も全自治体の中でICT度合いは37位なんですね。川棚町はどうやっているかという、アメリカと繋いで授業をやっているのですが、我々がアテンドして例えばパナソニックさんとか、アメリカに工場オフィスを持っていて、そこと繋いでいます。そして英語でのやり取りもですが、アメリカで働くことはどういう事かということも日本人の方が教えてくれたり、福井県がこのICTが進んでいますが、福井県の子どもたちと一緒に授業をしています。それは川棚町さんが小中学校は3校しかないから出来るといえば出来るのですが、コストが難しければ、こうやって日本企業がアメリカでやっているところはたくさんありますから、そういったところとアテンドしてやる事は可能となります。

#### **大村市長 園田 裕史**

ありがとうございます。

#### **教育委員 中嶋 剛**

ぜひ、教育委員会の事務局でお願いしたいのが、今の絵にも出てきましたけれども、この「飯塚市の教育ビジョン」という絵がありますが、大きな器が三つあって、「やさしく・かしこく・たくましく」具体的には「本物との出会い」など記載されていて、まとめてあります。根底には「小中一貫教育・地域とともにある学校づくり」とあり、このまとめ方はすごいなと思いました。これを見る

だけで飯塚市はこういうことをやっているんだとパッと見て分かります。だから大村市もぜひこういうまとめ方を考えて欲しい。例えば今、大村市は基本理念として、すべての子どもと地域のミライをはぐぐみ、ささえ、つなぐ「教育の町おおむら」というものがあります。そういうことがこのような図に出来ないか、見るだけでパッと分かるものです。飯塚市はよく考えて良いものを作っているなと感心しました。以上です。

#### **大村市長 園田 裕史**

ありがとうございます。中嶋委員が言われたようにこの図がこの資料の中のところどころで入ってくるので、これは確かにそうなんですね。このこれに沿ってこれがあるというような、非常に視覚的にも分かりやすいなと思います。大村市の教育委員会も基本方針は非常に分かりやすくまとめてあるので、こういうふうに図示するというのも参考になるかなと思います。いずれにしても、120ぐらいの首長が集まっている会議の中で、この分科会が話題で、その後他の首長から自分はこのコースではなかったんだけど、その時の資料はないかなと話がされたり、書籍を出されていたので、それも注目されているところでした。いずれにしても同じ取組みを大村市もたくさんやっていることもあると思いますし、大村市の方がたくさんやっていると思います。特に人口が増加をしていたり、非常にアクセスが良いという中で、こういう環境をさらに出して取り組んでいくということが参考になるのかなと思っています。今後また何かしら教育委員会で視察が再開になったら、そういった折には飯塚市を考えていただければなというところですよ。

ちょっとバタバタになってしまって時間が迫って参りましたけれども、以上協議事項を通して他に皆さんからありませんでしょうか。それでは一旦事務局に戻したいと思います。ありがとうございました。

#### **企画政策部長 渡邊 真一郎**

それでは、次第「4. その他」に移ります。次回の総合教育会議の日程ですが8月23日（火）を予定しております。教育委員会8月定例会と同じ日に開催いたします。詳細につきましては後日、改めてご連絡さしあげたいと思います。これをもちまして令和4年度第1回総合教育会議を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。